

学校番号	12	学校名	静岡県立袋井特別支援学校	校長名	岩附 祥子
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況 (教職員評価A・Bの%を記載)	評価	成果と課題
安心・安全	未然防止の行動力と有事への対応力	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを確認し危機管理に生かした教員 100% ・各種の訓練時や有事の際に初動対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・92% ・96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に最低限の行動を示したアクションカード作成と掲示は効果的であった。次年度は、アクションカードを活用し、有事の際に教職員が自分の役割が分かって行動できるような訓練を行う。 ・今後は、実際に即した訓練を計画実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・国評価レベルで示された教育活動の実施方法を、学年会・グループ会で確認し、実施できた教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認した教職員 90% ・実施した教職員 88% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・確認方法を固定したことで、決定事項の伝達がスムーズになった。 ・校内掲示板を使い分かりやすい情報提供を行った。今後は、授業等へ反映しやすくなるような工夫を考えていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに沿った医療的ケアの実施と緊急時の対応ができた教員・看護師 100% ・自分の学部・学年の医療的ケア児のケア項目を知っている教員 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・94% (看護師を含む) ・70% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜マニュアルを確認しながら、医療的ケアの実施ができた。 ・全教職員へより分かりやすく伝えるための研修を工夫する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学部内のヒヤリハットの類似事案発生 0 件重大事故発生 0 件 ・安全点検等の機会を通して管理責任場所や教室環境の危険な点に気付き、自ら改善したり、報告したりして安全な学習環境の整備を実践できた教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・96% ・96% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事案の総件数は 67 事案（2月17日現在）。原因・改善策を共有し、未然防止のための呼び掛けを行うことで、皆で確認をし、改善ができた。ヒヤリハットの多い時期や内容などについて月初め等に呼び掛けていく。 ・安全点検簿を使った点検業務を継続する。突発的な故障や破損について報告や相談を呼び掛けていく。物の定期的な整理の機会を作る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見据えた予算計画を策定し、効果的に予算執行ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・83% (事務職員) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費等高騰のため、見通しが難しかった部分がある。今後も計画的な予算策定と執行を行う。

子ども主体の授業	(同僚性) 高い集団の形成 自他を尊重し合う人権感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつと感謝の言葉を積極的に掛け合うこと(いつでも、どこでも、だれにでも)ができた教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子供たちの手本となるような挨拶を教職員一人一人が心掛けていく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる教員がいると答えた教員 100% (経験年数 6 年未満対象) ・経験年数の浅い教員を育てるために必要なことを、自ら伝えようとした教員 80% (上記以外) 	<ul style="list-style-type: none"> ・94% ・86% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・袋特版 O J T を推進したことにより、相談体制は整ってきている。 ・O J T でペアを組んだ教職員は必要な助言をしたと答えている。ペアだけでなく、誰にでもいつでも必要だと思うことを伝え合う風土の醸成を図る。 	
	専門性(授業力)の向上	個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく教育活動の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を、自立活動 6 区分 27 項目を活用して整理し、指導目標を設定することができた教員 75% ・定期的に指導内容や手立てを見直ししながら実践していくことで、指導目標を達成することができた教員 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・89% ・95% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年 3 回の自立活動学習会が効果的であった。今後もの確な目標設定や実践に結び付けることができるよう学習会を継続する。 ・定期的な呼び掛けにより、指導内容や児童のあらわれ・手立てについて話し合い、見直しをすることができた。今後も継続する。
		班別研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の意欲や思考の流れを考えて、学習グループごとの話し合いをし、授業実践を行った教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・95% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業設計や振り返りのための記録様式を学習グループごとに使用することで児童生徒の思考の流れを想像しやすくなった。話し合いの視点も明確になり、よりよい授業実践や授業改善への意識が高まった。
		教科別等指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・指導カードや教材教具を参考にして、実態から適切な目標を立て授業を行った教員 100% ・各教科等の年間指導計画や指導カードに道徳科の内容項目を記載し、実践できた教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・88% ・69% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導カード等を共有するフォルダは作成したが、具体的な使用方法までは示せなかった。フォルダ内の項目等を今後検討する。 ・来年度の年間指導計画に道徳の内容項目を記載し実践する。
		体育・自立活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <知的 G 対象> ・年間指導計画に基礎体力に関する観点を記載し、実践した教員 100% <肢体 G 対象> ・自立活動の年間指導計画(体操、集団学習等)で『健康の保持』『身体の動き』の 10 項目を記載し、実践した教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・79% ・86% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は基礎体力の観点を整理し、より効果的な指導ができるように単元カードに記載する。 ・外部講師の理学療法士等を活用し、理解が進んだ。学習指導要領で示されている区分や項目を理解して、授業を行っていく。
		12 年間を積み上げる授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・各全体計画に示した当該学年の内容を学年グループの年間指導計画に位置付け実践した学年グループ 100% 防災教育⇒防 性に関する指導⇒性 進路学習⇒進 道徳教育⇒道 	<ul style="list-style-type: none"> ・(実践した教職員) 防 71% 性 55% 進 40% 道 60% 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、各全体計画をそれぞれの学年等の年間指導計画に位置付け、12 年間を考慮した学習活動を行う。全体計画の活用方法(おさえ、活用のタイミング、見方等)を示したガイドを作成し、授業実践に結び付けていく。

様式第3号

連携	【校外】 共生社会の実現に向けたコミュニケーションスクールへ移行と地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・本校における交流及び共同学習の実践を知り、地域で生活するために必要な力を考えた教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 84% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流籍校交流の取組を年度始めに周知したことで児童生徒の地域参加を考えることができた。今後も共生共育を推進し、教職員、保護者、交流相手校が交流及び共同学習の目的をより一層理解できるよう働きかける。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校訪問、本校見学を実施後、校内で情報共有した袋井市教員 100% ・ 学校訪問で、学級担任と学校全体へ助言ができた本校コンサルタント 50% ・ 学校運営協議会の活動を知っている教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 袋井市教員 100% ・ 100% ・ 76% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は情報共有に留まらないよう、得た情報を活用できる取組や報告を行う。 <small>(袋井市教育委員会)</small> ・ 定期訪問時に相手校コーディネーターへの助言ができた。来年度も継続する。 ・ 5月に制度についての説明会を実施し、掲示物や便りを出して周知したが、一部の直接交流や作品交流のみであった。来年度は活動計画を立て、共同活動を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン活用や ホームページ等の情報発信の毎月更新実施率 100% ・ 子育て、教育相談、就労などの情報を保護者面談で活用した教員 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月一回以上更新 87% ・ 74% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年・グループ等で更新率に差があったが、教職員の意識は高まった。 ・ 保護者面談や連絡ノートなどから保護者が困っていることや知りたいことの把握ができた。今後は必要な情報を適時に提供できるよう校内体制（係分担等）を整える。
	【校内】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体の課題を把握し、学校運営に参画した学年主任、分掌課長 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 84% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同主任者会や分掌課長会を年4回実施し、それぞれの役割を確認したり、グループワークを行ったりした。学年経営等のアドバイスを受けることができ、有益であった。
	学部や分掌の連携による教育課題解決への取り組み				